

旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会の開催及び基盤整備に向けた検討について（報告）

建築・都市整備・道路委員会資料
令和 2 年 6 月 3 0 日
都 市 整 備 局

1 主旨

旧上瀬谷通信施設において、土地区画整理事業によるまちづくりや、新たな交通の整備といった基盤整備及び国際園芸博覧会の開催に向けた取組を一体的に進めるため、政策局・道路局の関連業務を都市整備局に集約し、新たに「上瀬谷整備・国際園芸博覧会推進室」を設置しました。

今年度は新たな体制で引き続き、基盤整備の本格的な事業着手に向けた手続きを進めるとともに、国際園芸博覧会の開催に向けた取組を進めます。

2 旧上瀬谷通信施設の概要

- 旧上瀬谷通信施設は、平成 27 年 6 月に返還された米軍施設の跡地です。
- 面積は約 242ha であり、首都圏でも貴重な広大な土地です。
- 東名高速道路や保土ヶ谷バイパスに近接しており、広域での交通利便性が高い地区です。
- 地区内は横浜市内でも有数のまとまった農地があり、周辺には市民の森があるなど、豊かな緑が広がっています。



航空写真

3 各事業の概要と進捗状況

(1) 国際園芸博覧会推進事業

旧上瀬谷通信施設において、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的とした国際園芸博覧会の開催に向けた取組を進めます。

昨年 9 月には、国際園芸家協会（AIPH）総会において、関係者の皆様のご支援、ご協力のもと、開催承認をいただきました。また、今年 3 月の AIPH 春会議では、横浜市の検討状況について進捗報告を行いました。

今後、国際園芸博覧会の会場構想、事業展開、来場者の円滑な輸送アクセス等について、深度化を図る調査・検討を行うとともに、博覧会の開催組織となる法人の設立準備や機運醸成等を図る全国的な推進組織を設立します。

引き続き、市民の皆様や関係者からの御意見をいただきながら、国や経済界とも連携し、取組を進めます。

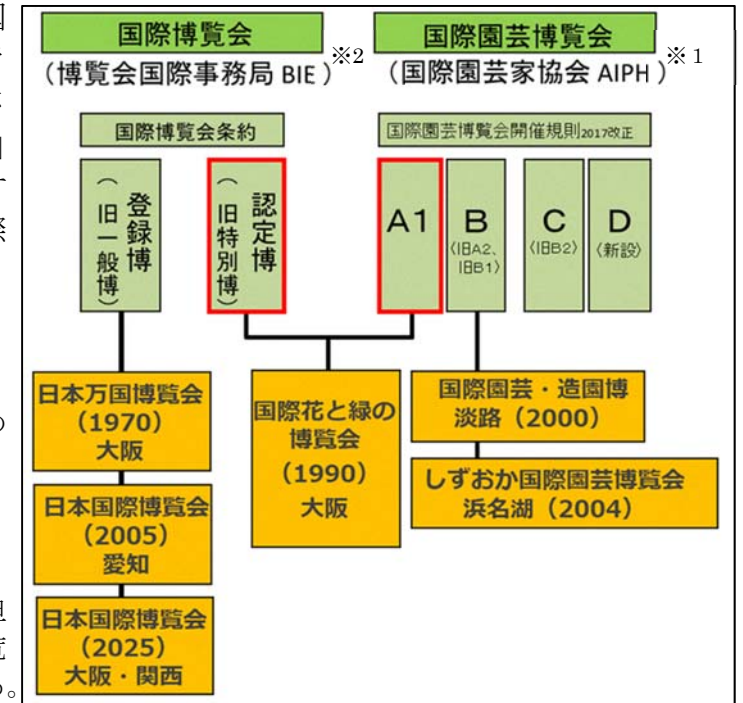


AIPH 開催承認の様子（令和元 9 月 AIPH 総会）

【参考 1】国際園芸博覧会

横浜で開催する国際園芸博覧会は、国家的プロジェクトとなる博覧会（A1 クラス）で、国内では 1990 年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会（花の万博）」があります。A1 クラスの博覧会を開催するためには、AIPH の承認と、博覧会国際事務局（BIE）の認定が必要です。

- ※ 1 国際園芸家協会（AIPH：Association Internationale des Producteurs de l'Horticulture）
国際的な非営利組織で、国際園芸博覧会の承認を行う主体。日本では一般社団法人日本造園建設業協会が会員。
- ※ 2 博覧会国際事務局（BIE：Bureau International des Expositions）
すべての国際博覧会の監督及び調整を担う政府間組織。A1 クラスの国際園芸博覧会は、BIE による認定を受ける必要がある。



<横浜における国際園芸博覧会の概要（開催申請書日本語版より）>

- 開催期間：2027 年 3 月～9 月
- 来場者数：1,500 万人以上（見込み）
- メインテーマ



【参考 2】国際園芸博覧会（認定博）の開催状況

年	開催国（都市）	参考（登録博）
2015		ミラノ万博
2016	トルコ（アンタルヤ）	
2019	中国（北京）	
2020		ドバイ万博※3
2021	カタール（ドーハ）	↓
2022	オランダ（アルメレ）	
2024	ポーランド（ウッチ）	
2025		大阪・関西万博

※ 3 新型コロナウイルスの影響により、2020 年から 2021 年への開催延期となった。

(2) 土地区画整理事業（まちづくり）

本地区の土地利用については、地権者と意見交換を行うとともに、市民の皆様から意見などを伺い、今年3月に「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」を策定しました。

土地利用基本計画では、約242haの広大な土地をいかし、4つのゾーンを配置するとともに、各ゾーンが連携することにより、人やものが行き交い、将来的には年間1,500万人が訪れる郊外部の新たな活性化拠点の形成を実現していくこととしています。

また、国有地・民有地の混在を解消するとともに、農業振興と都市的土地利用を行う土地を集約し、農業基盤や道路などの都市基盤の整備を一体的に推進するため、地区全域で横浜市が施行者となる土地区画整理事業を実施することを前提に検討を進めています。

今年度も引き続き、地権者と意見交換を行うとともに、市民の皆様から意見、要望を伺いながら、土地利用の検討を進めます。また、事業実施に向けた都市計画や環境影響評価の手続きを進めます。

(3) 新たな交通の導入・周辺道路整備

本地区における大規模な土地利用転換に伴い、発生が想定される交通需要に対応し、定時性や安定性のある輸送力を確保するため、瀬谷駅を起点とした、新たな交通を導入します。

新たな交通としては、新交通システム（AGT）を選定し、市内を運行する金沢シーサイドラインについての技術的知見も参考にしながら、検討を深度化します。また、構造形式としては、最寄りの相鉄線瀬谷駅から旧上瀬谷通信施設に至るまでの区間については主に地下式、旧上瀬谷通信施設内については主に地表式とし、環境影響評価の手続きを進めます。

また、想定される自動車交通需要に対応するため、東名高速道路や保土ヶ谷バイパス、国道246号からのアクセス路となる、八王子街道の拡幅や、中原街道からのアクセス路となる、瀬谷地内線の整備に取り組みます。

これらの路線の測量や設計等を進めるとともに、八王子街道については一部都市計画変更の手続きを進めます。



4 今年度以降のスケジュール

	国際園芸博覧会 推進事業	土地区画整理事業 （まちづくり）	新たな交通の導入 周辺道路整備
令和 2年度	●開催に向けた会場構想、事業展開、来場者の円滑な輸送アクセス等について検討（通年）	●地権者への個別面談等の実施（通年） ●設計・測量・調査の実施（通年）	●設計・測量・調査の実施（通年）
	●博覧会の開催組織となる法人の設立準備及び機運醸成等を行う全国的な推進組織の設立	●環境影響評価法に基づく、環境影響評価方法書の公告・縦覧、説明会の実施 ●都市計画市素案の公告・縦覧、説明会の実施 ●都市計画案公告・縦覧 ●環境影響評価準備書の公告・縦覧	●環境影響評価条例に基づく、環境影響評価方法書の公告・縦覧、説明会の実施 ●都市計画市素案の公告・縦覧、説明会の実施 ●都市計画案公告・縦覧 ●環境影響評価準備書の公告・縦覧
令和 3年度～	●博覧会開催組織の設立 ●BIE認定申請・承認 ●会場計画・整備、参加招請 ●イベントなど	●地権者との調整 ●都市計画決定 ●事業計画決定 ●工事実施（4年度～）	●軌道法特許申請 ●都市計画決定 ●軌道法特許取得 ●軌道法工事施行認可申請/取得 ●用地取得 ●工事実施（4年度～）
令和9年 3月	国際園芸博覧会の開催		